

あすなる薬局(千葉県香取市)



施設概要

千葉県香取市のあすなる薬局では、全国に先駆けて電子処方箋の運用にレセコン・薬歴一体のクラウド型タブレットを採用。薬剤師が手元で重複投薬等チェック、薬歴の入力等ができるため、1日あたり30~60分を効率化。(1患者あたり約2分の短縮。)
電子処方箋の「薬局側が処方箋の原本を取り出して入手できる」というメリットを最大限に生かすための運用方法を実現。



株式会社ファームレスト
営業企画部長 石畑さん

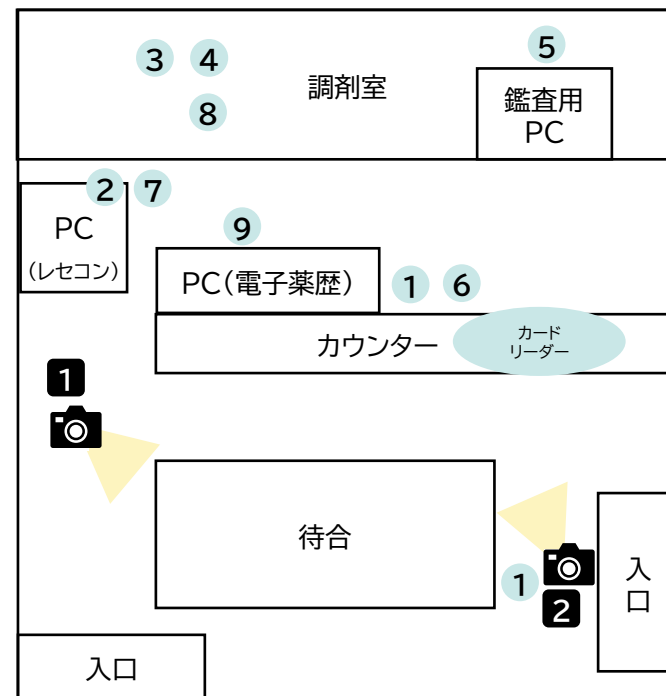
・薬局における、患者さんにとってのメリットは、「早さ」と「安全性」です。電子処方箋になることで、これらをより実現できると考えます。

・最初は、職員も処方箋を電子で扱うことへの不安や懸念を持っていました。しかし、調剤方法に係る法律が変更されたわけではないので、紙の処方箋のときと行うことは変わらず、紙を見て行っていた作業を電子データを見て行えるようになっただけです。
医療の安全と同時に、業務の効率化もはかれるよう電子処方箋を導入したのだから、電子処方箋にしたことでむしろ負担が増えるようなことがあれば運用を考えるので言ってほしいと職員にも伝えていました。

・店舗数の少ない薬局だからこそ、自由に業務を改善することができていると感じています。

・令和6年7月現在、受け付けたことのある電子処方箋は国保旭中央病院のもののみですが、他の医療機関でも電子処方箋が導入されることを期待します。

動線イメージ図



マイナ受付
(または健康保険証を提出)



※下線部が、電子処方箋の導入により業務を変更した箇所、得られるメリットです。

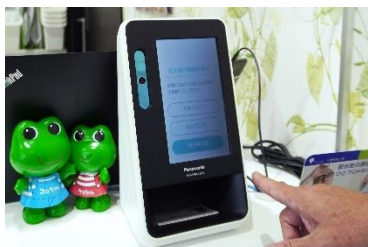
①受付

i) 患者さんがいらしたら、入り口近くに職員が向かい、来局した患者さんに声をかける。マイナンバーカードを持参している患者さんには顔認証付きカードリーダーでの受付を案内。

ii) お薬手帳をお持ちの患者さんからは、受付でお薬手帳をお預かり。

電子処方箋でマイナ受付の患者さんから処方内容(控え)の提出があったときは、処方箋原本ではないので患者さん又は薬局側で処分できることを案内。

＼カードリーダーの周囲に操作方法を掲示／

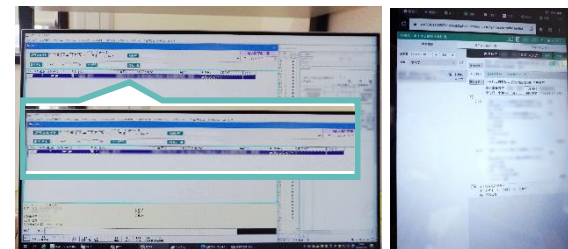


②処方入力

i) マイナ受付の場合は、自動的に電子処方箋管理サービスから電子処方箋が取り出され、レセコン、タブレットに同時に自動的に処方情報が取り込まれる。

健康保険証の場合は、処方内容(控え)にある引換番号と

被保険者番号等を入力し、電子処方箋管理サービスから電子処方箋を取り出すと、レセコンとタブレットに同時に自動的に処方情報が取り込まれる。



タブレットの活用により
並行して作業可能

ii) 新患の場合は、調剤事務職員が患者IDを作成開始

ii) 受け付けた電子処方箋に薬剤の院内名称が記載されている場合(★)は、調剤事務職員が、受付のレセコン上で手動で院内名称を削除。

ii) 薬剤師または調剤補助員がタブレットを見ながら、取り込まれた電子処方箋の情報をもとに、ピッキングを行う。



(★)受け付けたことがある電子処方箋には、処方内容の他、薬剤の院内名称も記載されている。これにより、含有規格が明確にわかるようになったため、院内採用と同一の薬剤を調剤するのではなく、含有規格が異なる後発医薬品に薬局側の判断で変更できるようになったが、患者さんを混乱させないように削除している。

※下線部が、電子処方箋の導入により業務を変更した箇所、得られるメリットです。

患者

調剤

③処方監査

- i) ピッキングした薬と処方内容が合っているかを確認する。
- ii) タブレットの画面で薬剤情報や診療情報を確認する。(★)
- iii) タブレットの画面で重複投薬等チェックを行う。重複投薬等チェックでアラートが発生した場合、通知が表示される。

(★)電子処方箋未対応の医療機関・薬局で処方・調剤された薬は薬剤情報に反映されるまで約1ヶ月かかるため、抜け漏れがないようにお薬手帳も確認している。前回来局時から他の医療機関・薬局で新たに処方・調剤されている分のお薬があれば、お薬手帳の情報を都度薬局内のシステムに取り込んで確認する。

タブレットを利用することでカメラ機能で記録できるメリットもある。後日患者さんが「一部の薬が入っていなかった」と仰った際に、きちんと調剤したことを確認いただける。また、検査値等(特に腎機能、体表面積)も計算できる機能も搭載しているので、計算の手間と時間が削減されている。

④疑義照会

- i) 処方内容に関して疑義がある場合は、患者さんに確認、医療機関に疑義照会を行う。(★)
- ii) 疑義照会の結果、処方内容に変更が生じた場合に、患者さんに変更点を伝える。
- iii) 疑義照会を行った場合、タブレットの画面で薬歴に内容を記載する。

タブレットの画面をタッチすると医薬品名、用量ともに、✓を付けられるため、紙面と同様に確認することが可能



(★)同じ成分の薬剤が新たに処方されていた際、医師から電子処方箋のコメント機能を活用して「新しい薬剤に切り替えてください」等のコメントが入力されていることがある。重複投薬にならないようこれまで飲んでいた薬から切り替えるよう処方されていることが分かるため、疑義照会を行わず、その分患者さんへの説明の時間などに充てることができる。

薬局側

※下線部が、電子処方箋の導入により業務を変更した箇所、得られるメリットです。

患者

薬の受け取り、会計

⑤最終監査

i) 調剤した薬剤が処方内容と一致しているか、医薬品に付いているバーコードをレセコンで読み込んで確認する。

ii) 調剤録を印刷し、調剤した薬剤と見比べて確認する



⑥服薬指導・会計

i) 薬剤情報提供書に基づき、服薬指導を行う。

服薬指導時、
薬剤師は手元でタブレットを確認



タブレットを確認、入力しながらできるため、患者さんにかかる情報の薬剤師間の引継ぎが円滑に

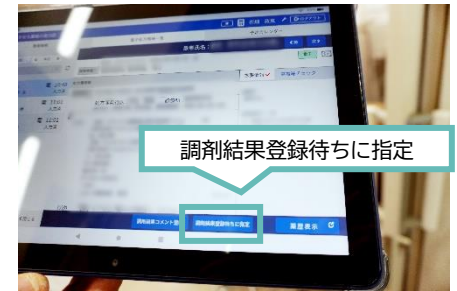
⑦調剤録作成

i) レセコンで調剤録を作成する。

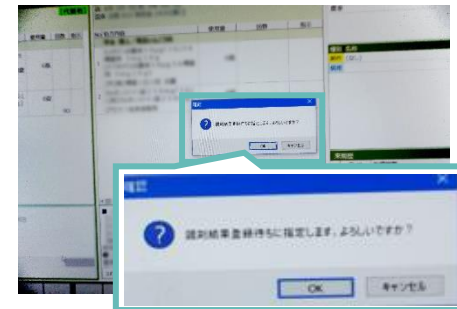
⑧薬歴作成

i) タブレットで薬歴を作成する。

ii) 薬歴作成後「調剤結果登録予約」を行う。
(電子薬歴に反映される)



タブレットの画面上で「調剤結果登録待ちに指定」をクリック



電子薬歴に反映され、
調剤結果登録できる状態になる

薬局側

※下線部が、電子処方箋の導入により業務を変更した箇所、得られるメリットです。

患者

薬局側

⑨調剤結果登録

i) 受付横の電子薬歴に接続されているHPKIカードリーダーにHPKIカードを置く。調剤結果登録の予約一覧の中から自身が調剤した患者さんの情報を検索/指定し、調剤結果登録。(★)

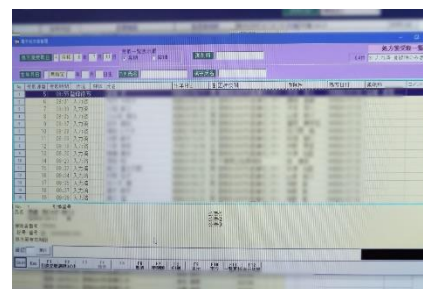
ii) 4桁のPINコードを入力し、HPKIカードで電子署名を行う。

iii) 調剤結果登録が完了する。

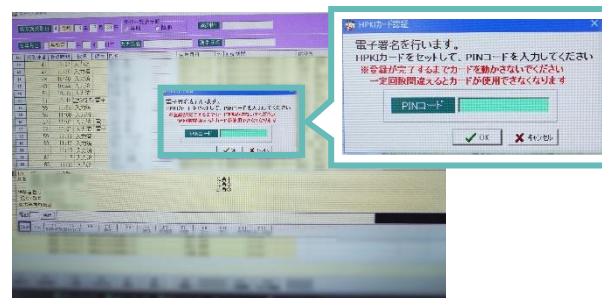
(★)複数名の薬剤師が勤務しているが、HPKIカードリーダーが1つのため、薬剤師ごとに、午前・午後・勤務終了時など、ある程度まとめて当日分の調剤結果登録を行う。
※1~10件まとめて調剤結果登録を行っても、システムが調剤結果登録にかかるシステムの時間は変わらない。

1日の業務終了時に、当日調剤を行ったもので調剤結果登録をしていないものがないか、店長が確認。
※もともと薬歴未作成のものがないかチェックしていたため、手間は変わらない。

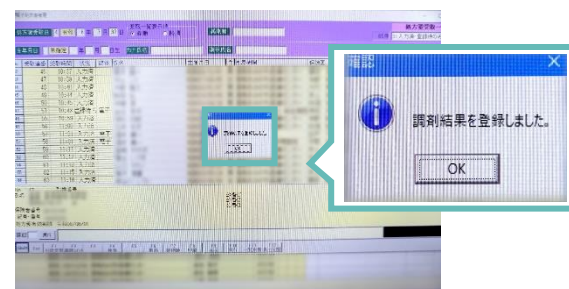
完了



調剤結果登録するものを選択



HPKIカードのPINコードを入力



あすなる薬局(事前受付の場合)

※あすなる薬局でお使いのウィーメックスヘルスケアシステムズ株式会社の薬歴とレセコンでの場合です。各薬局でお使いのシステムとは操作方法等異なるため、各システム事業者へご確認ください。

※下線部が、電子処方箋の導入により業務を変更した箇所、得られるメリットです。

患者

処方内容(控え)をFAX送付や電子処方箋の引換番号をアプリ送信

国保旭中央病院からあすなる薬局までは車で約30分の距離にあるため、診察を終えた患者さんが、来局前に、処方内容(控え)にある引換番号をあすなる薬局に連絡しておくことも多い。

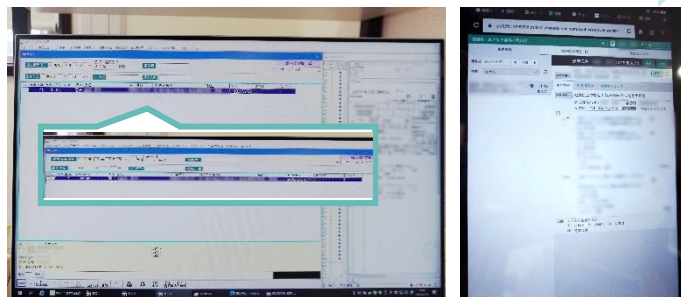
薬局側

①事前受付 (FAXまたはアプリ)

i) 引換番号と被保険者番号等を受領

②処方入力

i) 処方内容(控え)にある引換番号と被保険者番号等を入力するか、処方内容(控え)にある二次元コードを読み取り、処方情報を取り込む。



ii) 新患の場合は、調剤事務職員が患者IDを作成開始

ii) 受け付けた電子処方箋に薬剤の院内名称が記載されている場合(★)は、調剤事務職員が、受付のレセコン上で手動で院内名称を削除。

ii) 薬剤師または調剤補助員がタブレットを見ながら、取り込まれた電子処方箋の情報をもとに、ピッキングを行う。

タブレットの活用により
並行して作業可能



(★)受け付けたことがある電子処方箋には、処方内容の他、薬剤の院内名称も記載されている。これにより、含有規格が明確にわかるようになったため、院内採用と同一の薬剤を調剤するのではなく、含有規格が異なる後発医薬品に薬局側の判断で変更できるようになったが、患者さんを混乱させないように削除している。

あすなる薬局(事前受付の場合)

※あすなる薬局でお使いのウィーメックスヘルスケアシステムズ株式会社の薬歴とレセコンでの場合です。各薬局でお使いのシステムとは操作方法等異なるため、各システム事業者へご確認ください。

※下線部が、電子処方箋の導入により業務を変更した箇所、得られるメリットです。

患者

薬局側

調剤(★)

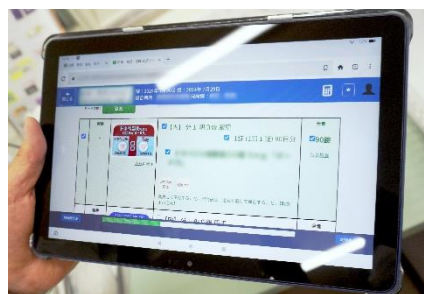
③処方監査

- i) ピッキングした薬と処方内容が合っているかを確認する。
- ii) タブレットの画面で重複投薬等チェックを行う。重複投薬等チェックでアラートが発生した場合、通知が表示される。

(★)電子処方箋の場合、引換番号・被保険者番号等を用いて読み込んだ処方情報が処方箋原本であるため、患者さんが来局する前に調剤を開始できる。

タブレットを利用することでカメラ機能で記録できるメリットもある。後日患者さんが「一部の薬が入っていなかった」と仰った際に、きちんと調剤したことを確認いただける。また、検査値等(特に腎機能、体表面積)も計算できる機能も搭載しているので、計算の手間と時間が削減されている。

タブレットの画面をタッチすると医薬品名、用量ともに、✓を付けられるため、紙面と同様に確認することが可能



④疑義照会

- i) 処方内容に関して疑義がある場合は、患者さんに確認、医療機関に疑義照会を行う。(★)
- ii) 疑義照会の結果、処方内容に変更が生じた場合に、患者さんに変更点を伝える。
- iii) 疑義照会を行った場合、タブレットの画面で薬歴に内容を記載する。

(★)同じ成分の薬剤が新たに処方されていた際、医師から電子処方箋のコメント機能を活用して「新しい薬剤に切り替えてください」等のコメントが入力されていることがある。重複投薬にならないようこれまで飲んでいた薬から切り替えるよう処方されていることが分かるため、疑義照会を行わず、その分患者さんへの説明の時間などに充てることができる。

あすなろ薬局(事前受付の場合)

※あすなろ薬局でお使いのウィーメックスヘルスケアシステムズ株式会社の薬歴とレセコンでの場合です。各薬局でお使いのシステムとは操作方法等異なるため、各システム事業者へご確認ください。

※下線部が、電子処方箋の導入により業務を変更した箇所、得られるメリットです。

患者

来局、マイナ受付
(または健康保険証を提出)

「電子処方箋」 > 「事前連絡済み」を選択してもらう



薬の受け取り、会計

⑤最終監査

i) 調剤した薬剤が処方内容と一致しているか、医薬品に付いているバーコードをレセコンで読み込んで確認する。

ii) 調剤録を印刷し、調剤した薬剤と見比べて確認する



⑥服薬指導・会計

i) 薬剤情報提供書に基づき、服薬指導を行う。

⑦調剤録作成

i) レセコンで調剤録を作成する。

薬局側

患者来局後

i) 患者さんがいらしたら、入り口近くに職員が向かい、来局した患者さんに声をかける。マイナンバーカードを持参している患者さんには顔認証付きカードリーダーでの受付を案内。

ii) 引換番号を確認。また、お薬手帳をお持ちの患者さんからは、受付でお薬手帳をお預かり。

iii) タブレットの画面で薬剤情報や診療情報を確認する。(★)

(★)電子処方箋未対応の医療機関・薬局で処方・調剤された薬は薬剤情報に反映されるまで約1ヶ月かかるため、抜け漏れがないようにお薬手帳も確認している。前回来局時から他の医療機関・薬局で新たに処方・調剤されている分のお薬があれば、お薬手帳の情報を都度薬局内のシステムに取り込んで確認する。

服薬指導時、
薬剤師は手元でタブレットを確認



タブレットを確認、入力しながらできるため、患者さんにかかる情報の薬剤師間の引継ぎが円滑に。

あすなろ薬局(事前受付の場合)

※あすなろ薬局でお使いのウィーメックスヘルスケアシステムズ株式会社の薬歴とレセコンでの場合です。各薬局でお使いのシステムとは操作方法等異なるため、各システム事業者へご確認ください。

※下線部が、電子処方箋の導入により業務を変更した箇所、得られるメリットです。

患者

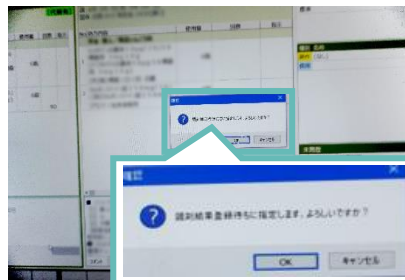
薬局側

⑧薬歴作成

- i) タブレットで薬歴を作成する。
- ii) 薬歴作成後「調剤結果登録予約」をクリック。(電子薬歴に反映される)



タブレットの画面上で「調剤結果登録待ちに指定」をクリック



電子薬歴に反映され、調剤結果登録できる状態になる

⑨調剤結果登録

- i) 受付横の電子薬歴に接続されているHPKIカードリーダーにHPKIカードを置く。調剤結果登録の予約一覧の中から自身が調剤した患者さんの情報を検索/指定し、調剤結果登録。(★)

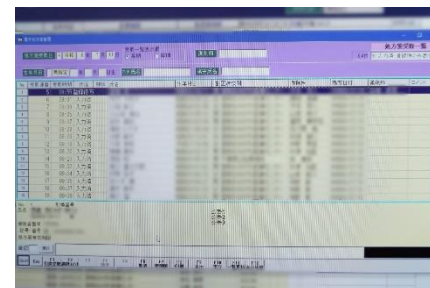
- ii) 4桁のPINコードを入力し、HPKIカードで電子署名を行う。

- iii) 調剤結果登録が完了する。

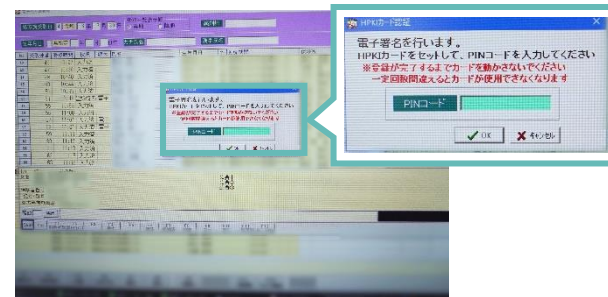
(★) 複数名の薬剤師が勤務しているが、HPKIカードのリーダーが1つのため、薬剤師ごとに、午前・午後・勤務終了時などある程度まとめて当日分の調剤結果登録を行う。
※1~10件まとめて調剤結果登録を行っても、システムが調剤結果登録にかかる時間は変わらない。

1日の業務終了時に、当日調剤を行ったもので調剤結果登録をしていないものがないか、店長が確認。
※もともと薬歴未作成のものがないかチェックしていたため、手間は変わらない。

完了



調剤結果登録するものを選択



HPKIカードのPINコードを入力

